

## ないもん数えんと、ここで生きるちゅうて、腹くくらんけ!

### NHK朝ドラ「まれ」始まる



#### 過疎化の波にのまれる能登で

青い空、青い海、ごつごつした海岸など、美しい日本の能登の自然にひかれて毎朝見えます。

始まって間もない朝、いきなりこのセリフが飛び出しました。「能登は陸地の果てやちゅうて言うもんもおる。そやけど能登は果てじゃなしに、海に向こうて開けとるげ。こうにしておらっちは生きとるで。ないもんを数えんと、ここで生きるちゅうて、腹くくらんけ! 祭りをやらんけ!」と、曳山(やま)の担ぎ手が少なくなり、祭りの開催が危うくなった外浦(そとら)村で塩作りに孤軍奮闘する元治爺さん(田中泯)が集会所で声をあげた場面でした。

#### 勇気を与えるメッセージ

この言葉を聞いた時、私の胸がドキッと、頭がビビッと響きました。これは朝ドラから飛び出して、政治家に向けて投げかけられたメッセージだ!あるいは今の政治に不安を抱く人たちに勇気を与えてくれるメッセージだ、と思いました。「ないもんを数えんと」「あるものに目を向けよ」と言っています。脚本は篠崎絵里子。

#### 「ないもん数え」の政治の流れ

日本には戦争をするための憲法も軍隊もあ

りません。ないけれど、足りないものではありません。私たちの憲法には平和をとことん追求する精神があります。それがあから世界への国とも武力で問題を解決しないことを前提に向き合うことができます。それによって信頼も得てきました。これは私たちが胸を張って示すことができる「あるもん」です。日本はまさに平和の海の先端につきだした半島みたいなものです。元治さんはそこのところをズバリと言ってくれた。

ところが最近の政治家の言葉には「ないもん数え」が多すぎる!みなさんはそう思いませんか。労働者の給料は「ないもんリスト」にあげてよいと思いますが、戦争をする国にするための道具集めをしてほしくはありません。憲法の精神に則って、腹をくくって平和を追求してほしい。



#### ひっくり返して盛り上がる夏祭り

外浦の人たちは夏祭りを実施することにしました。子どもたちが叩く太鼓の音や曳山を引く声が能登の外海に響き渡りました。元治爺さんの言葉を聞いた村人は夏祭り反対の意見をみずからひっくり返したのです。現実の世界もひっくり返したいですね!